

# 日本経済新聞

8月5日

水曜日

発行所 日本経済新聞社  
 東京本社 03-3270-0251  
 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
 大阪本社 06-6943-7111  
 〒100-8066 東京都千代田区大手町1-3-7  
 名古屋支社 052-243-3311  
 〒460-0001 愛知県名古屋市中区栄3-1-1  
 西郷支社 092-473-3300  
 〒960-0811 青森県西郷町西郷1-1-1  
 ニッケイ・エレクトロニクス  
 http://www.nikkei.co.jp/  
 購読のお申し込み  
 0120-21-4946  
 http://www.nikkei4946.com

## 両毛の威力

薄型テレビに欠かせないと、断面を研磨しないと、液晶画面を背面から照し出すバックライト。これに組み込む直径2.53mmの「ピース」と呼ぶガラス管部品を手掛けるのがシーアンドシー硝子研究所(栃木県足利市、岡崎健二社長)だ。極細のガラス管を割ることなく切断・加工する高い技術力を誇る。部品の国内シェアは2割近くに達するといふ。

ガラスは硬くてもろい素材。通常、ガラス管をダイヤモンドカッターで切断する。しかし極細のガラス管では切り口の研磨が困難だ。カッターの硬度や種類、切削機械の仕様や切削液の使い方を工夫。試行錯誤を重ねることで、研磨せずに製品にするノウハウを独自に確立した。

足利を地盤に約30年の歴史を刻んだガラス加工会社が前身だ。バブル後に経営難となり、技術者だった岡崎氏が従業員と工場を引き継いだ。ガラスの切削(カ

### 極細ガラス管切断で独自技術

シーアンドシー硝子研究所 (足利市)



工場内では「焼き黒屋」「ライメン屋」などに見立てて機械を配置。楽しみながら作業効率を上げている。

## 液晶向けシエア2割

「ストロ」(C)と着色(カラーメント)を固定するガラス製再現実験も他にはない。経営の2本柱を頭文字にとった社名で、1993年4月に新しい会社が発足した。液晶向けシエア2割。特殊な配合のインクをガラスに焼き付け、品川1社に絞っている。ガラス加工に経営資源を

【会社概要】  
 ▽設立 1993年4月  
 ▽所在地 栃木県足利市江川町3丁目5番地の3  
 ▽売上高 約7億円 (2009年3月期)  
 ▽従業員数 30人  
 ▽製造分野 電球用ガラスの切断・着色加工

集中するもの、岡崎社長「工場」、部品の接着工程を「発光ダイオード(LED)」「焼黒屋」、製品の洗浄工程を「ライメン屋」などと名付けた。

それだけの工程の責任者が楽しみながら生産性を高め、働いてもらう試み。今や企業規模を問わず、全国から年間数千人が視察に訪れる。足利の隠れた名所にもなっている。

新分野開拓にも力を入れている。ガラス切断技術で太陽電池用シリコンなどへの応用を模索。ガラス着色の分野でもインクメーカーと組み、新たな着色材の開発などの研究を始めた。前身の会社から「復活」を遂げた。16年、技術力と柔軟な発想で生き残りを賭ける。

# 栃木

栃木県足利市江川町3丁目5番地の3  
 TEL 0283-24-3311 FAX 0283-24-3311